



大村 のぶまさ

誠友会 展正

(45分)



海洋環境の改善は

問 ①力キ養殖に対して、県と市で生産性向上に向けた支援が行われていると伺っているが、その内容は。

②海洋環境改善に関する官民共同会議の設置の趣旨と方向性は。

答 ①県では、三倍体力キの養殖技術の継続的な指導と殻付き力



田口 ゆず

誠友会 裕司

(45分)



小中学校での不登校は

問 本市の令和5年度における公立小中学校の不登校児童生徒数は1560人で、4年連続の増加となっている。背景要因をどのように分析しているか。

答 コロナ禍での行動制限や学習環境の変化によって、無理して学校に行かなくてもよいという意

キ非破壊検査機器の導入を進めている。また、市では滅菌処理設備などの整備を支援している。

②漁獲量の大幅な減少や漁業者数の減少に加え、アイゴ、チヌの食害やミズクラゲの大量発生など、漁業を取り巻く環境が大きく変化している。こうした海洋環境と漁業振興の課題の解決に向けて、産学官民からなる共同会議を設置した。引き続き議論を重ね、将来的には瀬戸内海の持つ地域資源の魅力を生かした体験型観光などについても研究し、地域の活性化につなげていきたいと考える。

識が児童生徒や保護者に広がったことなどが要因と捉えている。

こどもの居場所づくり支援事業補助金は

問 補助金を活用している団体数とその効果は。

答 昨年度の実績は3団体で、延べ593人のこどもが参加した。実績報告では、地域とのつながりを感じられる場所であったなどの多くの意見があった。



こどもたちが体験を通じて学ぶ様子



小島 たかひろ

誠友会 崇弘

(45分)



町内会への加入促進策は

問 特に若い世代や子育て世代には町内会の活動やメリットが十分に伝わっていない現状がある。ICTを活用することで、防災訓練や地域イベントなどの案内を若い世代に直接届けることができる。また、ホームページ上で町内会への加入申請を行



岡崎 まさひろ

誠友会 正淳

(45分)



(仮称)地域の拠点づくり戦略は

問 ①現在進められている地域の拠点づくり戦略では、旧合併地域のそれぞれのポテンシャル分析が行われているが、その概要は。

②各エリアは地域の歴史や文化また地理的な特性や風土などの諸条件が異なることから、拠点

えるようにすることも有効と考える。こうしたデジタルツールを活用した情報発信、情報共有、加入申請の仕組みづくりなどにより、全ての住民がまちづくりに参加しやすい環境づくりが可能になるのではないかと。

答 SNSによる情報伝達は、若い世代も親しみやすく、自治会(町内会)の活動を知ることによって加入にもつながるものと考えている。



づくりは基本的な定義と同時にエリアごとの戦略が求められると考える。現時点での戦略策定の基本的な考え方は。

答 ①シンクタンクが取りまとめた各地域の分析結果を、7月に開催した地域力アップデート大会議において参加者と共有した。②地域と行政の意見交換に加え、外部の専門家を交える中で、各エリアの地域住民の意見などを取りまとめしていく。そしてめざす姿と具体的な取り組みを盛り込んだ戦略を年度内に策定する。

※三倍体力キ：内海町で生産している三倍体力キは、広島県が品種改良により産卵をしない力キとして開発したものであり、通常力キが産卵して体が痩せてしまう夏期にも、身入りがしっかりしており、1年を通じて食べられるという特徴がある。